

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な選択ができる教育課程、仲間とともに学ぶ主体的で充実した高校生活を通して、自らの「夢」にチャレンジする生徒を育て、希望する進路を実現するための確かな学力が身につく、「進学重視の総合学科」をめざす。

1. 主体的な進路選択を支えるガイダンスの充実と、夢チャレンジを具体化する教育活動の展開

2. とともに学び、ともに育つ学校生活の充実

3. 主体的・対話的で深い学びの実現と、確かな学力の育成

めざす生徒像

1. 自分の可能性を限定せず、つねに前向きなチャレンジ精神をもつ、主体的な行動力がある人

2. 広い視野と高い志をもち、目標に向かって粘り強く努力を重ねる人

3. さまざまな進路や夢、個性をもつ人とのコミュニケーションを通じ、人を思いやり、人のために行動できる 豊かな心を持つ人

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と授業改善

(1) 授業の充実と授業改善

教員相互の授業公開や研究協議、授業アンケート結果の検証等を通じ、すべての教科・科目等で問題発見・解決能力・論理的思考力を育む探究的な学びの充実に取り組むとともに1人1台端末等ICTを日常的・積極的に活用する授業改善に取り組む。

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「生徒1人1台端末を効果的に活用するなど工夫している」をR10年度も90%以上。(R5：93%、R6：94%、R7：93%)

(2) 自分の意見をまとめ、相手に自分の考えを伝える能力の向上

「総合的な探究の時間」の充実を図る。

※ 総合学科アンケートにおける「コミュニケーション能力が身についた」をR10年度も90%以上とする。(R5：79%、R6：91%、R7：91%)

(3) 基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養

授業充実による学力向上を基本に、講習、補習等で「学力生活実態調査」の再点検を行うなど、基礎学力を定着させ、進路実現に向け最後まで頑張り続ける意欲・姿勢を高めさせる。

※ 「学力生活実態調査」(1、2年)におけるGTZの1年B3、2年B3をR10年度には共にB2とする。(R5：[B2、B3]、R6：[B3、B3]、R7：[B3、B3])

2 安全で安心な学校づくり

(1) 人権教育の推進(生徒一人ひとりがそれぞれの個性を尊重しあう集団づくりを行い、人権課題に主体的に対応できる力を育む)

ア 自立支援コースの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを推進するとともに、府内の高等学校における支援教育力の向上に貢献する。

イ いじめの早期発見・対応、体罰防止など、生徒一人ひとりの人権を尊重する学校づくりを推進する。

(2) 教員の人権意識の高揚

ア 校内人権研修を通じて自らの人権感覚を高め、人権侵害のない学校づくりをめざす。

※ 教員の「学校教育自己診断」における『人権教育の校内研修や学習会は充実している』をR10年度90%以上とする。(R5：85%、R6：85%、R7：90%)

(3) 生徒の規範意識の醸成

ア 生徒指導、人権教育を両輪とした教員からの働きかけに加え、生徒自治会活動などを通じた生徒の取り組みも引き出し、安全安心な学習環境を維持する。

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「生活指導上のルールを守っている」をR10年度95%以上とする。(R5：97%、R6：96%、R7：98%)

(4) 防災教育の充実と安全・安心な教育環境の確保

※ 関係機関や地域と連携した実践的な防災避難訓練を年1回以上実施する確保をめざす。(R5：2回、R6：2回、R7：2回)

(5) 働き方改革の推進 業務の効率化・平準化を進め「生徒・保護者の信頼度、働き甲斐」を損なうことなく在校等時間の適正化に努める。

※ 全日制の平均在校等時間平均(R6は年度370時間(月平均30.8時間))を下回るように目標設定 実現をめざす(R5：33.3、R6：30.8、R7：30.4)

3 夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成

(1) キャリア教育の充実

ア 「総合的な探究の時間」「志学」等によるキャリア教育の充実、適切な教育課程の編成、多様な人材の活用や連携による魅力ある教育活動の展開を通して、夢や志を持って自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むとともに、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を育成する。

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「将来の進路や、生き方について考える機会がある」を、R10年度も90%以上とする。(R5：95%、R6：94%、R7：92%)

※ 総合学科アンケートにおける『「夢チャレンジ」では、研究や発表など創意工夫ができる機会を持つことができた』をR10年度には85%以上とする。(R5：79%、R6：87%、R7：89%)

イ 保育所、病院、老人介護施設等へのインターンシップの充実を図り、それぞれの職業への理解を深める。

(2) 部活動の充実と学校行事への積極的な参加

ア 「部活動に係る基本方針」に則り、部活動を充実・活性化すると同時に、魅力発信を強化し、入部率の回復、伸長を図る。

※ 部活動入部率をR10年度には70%とする。(R5：65%、R6：66%、R7：65%)

イ 学校行事等の生徒が自主運営する行事の活性化を図り、自己肯定感を高める。

※ 「体育祭」「文化祭」の満足度をR10年度90%以上とする。(R5：92、R6：92、R7：89)

※ 総合学科アンケートにおける「自分の考える力や自主性を伸ばすことができた」をR10年度も90%とする(R5：78%、R6：90%、R7：90%)

(3) 生徒の対外活動の活性化と地域連携

ア 部活動や授業において、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。

4 開かれた学校づくりの推進と情報の発信

(1) ホームページ、連絡網等の充実

ア 学校の情報をタイムリーに保護者・生徒に提供するとともに、地域社会に向けた効果的な広報活動の充実を図る。

※ HP、SNS等の更新を頻繁に行うとともに、連絡網によるタイムリーな情報発信を行い、保護者の「学校教育自己診断」における情報提供満足度をR10年度も85%以上とする。(R5：85%、R6：85%、R7：87%)

(2) 学校説明会の充実

ア 学校説明会、オープンスクール及び、ミニ見学会等の内容を、参加者のニーズに合うようアンケートを取り充実させる。

(3) 緊急時の連絡手段の構築と活用

ア 緊急時等における生徒・保護者・教職員の連絡手段の活用を図る。

(4) マーケティング×ブランディング×プロモーションの法則に基づき、魅力向上を図る。

ア 魅力ある講座・探究内容について能動的に改善を図る。

学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見	
学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	(1) 「主体的、対話的で深い学び」、問題発見・解決能力・論理的思考力の育成、ICT を活用した授業改善	(1) ・教員相互に資質を高め合う授業公開や研究協議、教材開発、授業アンケート結果の検証等を通じて、すべての教科・科目等で「主体的・対話的で深い学び」のある授業、問題発見・解決能力・論理的思考力を育む探究的な学びの充実に取り組むとともに、1人1台端末等を日常的・積極的に活用する授業改善に取り組む。	(1) ・学校教育自己診断における「1人1台端末を効果的に活用するなど工夫している」の肯定率90%以上〔93%〕	
	(2) 相手に自分の考えを伝える能力の向上	(2) ・SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた「総合的な探究の時間」において、自分の考えを伝え、国際的な視野にたてるグローバル人材の育成をめざす。	(2) ・総合学科アンケートの「コミュニケーション能力が身についた」肯定率90%以上〔91%〕	
	(3) 基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養	(3) ・授業充実による学力向上を基本に、講習、補習等で「学力生活実態調査」の再点検を行うなど、基礎学力を定着させ、進路実現に向け最後まで頑張り続ける意欲・姿勢を高めさせる	(3) ・「ガシドリ」の実施等による基礎学力の定着を図り、「学力生活実態調査」1,2年におけるGTZをどちらかでB2とする。〔B3,B3〕	
2 安全で安心な学校づくり	(1) 人権教育の推進 ア 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進	(1) ア・「自立支援コース」生徒の授業交流の機会を保障するとともに支援学校との交流の継続実施 ・障がい者理解、SNS などの人権学習をはじめ、あらゆる教育活動において人権・多様性を尊重する教育を推進し、自他の違いを認め権利を尊重し、人権課題に主体的に対応できる力を育む。	(1) ア・「自立支援コース」生徒の交流授業を6教科で実施し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。〔6教科〕 ・支援学校との交流を2回実施〔2回〕 ・「学校教育自己診断」（保護者）における「人権感覚を身につけている」肯定率90%以上〔90%〕	
	イ いじめ防止	イ・いじめはどこにでも起こりうることを認識し、教職員一人ひとりが敏感で寄り添う指導ができるよう資質の向上に努めるとともに、「いじめ防止基本方針」に則り組織的に取り組む。	イ・学校教育自己診断における「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率90%以上を維持〔93%〕	
	ウ 仲間づくり	ウ・HR 活動等における仲間づくりや、授業・行事で生徒が協同して取り組む活動を積極的に行うとともに、教職員・生徒ともに挨拶を励行する。	ウ・学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」肯定率85%以上〔84%〕	
	エ 自立支援コースの成果の府内での共有	エ・高等学校支援教育力充実事業支援教育サポート校として、府内の高等学校における「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。	エ・要請を可能な限り承諾し、府内高等学校の支援教育力向上のため、他校教員も参加する情報交換会・研修会を3回以上実施する。〔情報交換会5回、研修会3回〕	
	(2) 教員の人権感覚や	(2) ア・様々な人権課題の中から人権研修を年間2	(2) ア・学校教育自己診断（保護者）	

2 安全で安心な学校づくり	人権意識の高揚 ア 人権研修の充実	回開催し研修の充実を図る	「学校は生命を大切にす る心や社会のルールを守 ろうとする心を養おうと している」肯定率 90%以上 [90%]	
	イ 教育相談体制 の充実 (3) 生徒の規範意識の 醸成 (4) 防災教育の充実と 安全・安心な教育環 境の確保 (5) 働き方改革の推進	イ・生徒一人ひとりの心身の状況把握に努めるとともに、教職員から生徒への声掛けなど生徒が気軽に相談しやすい関係の構築、全体で教育相談にあたる意識の醸成など、組織的な教育相談体制の充実に取り組む。 (3) ア・生徒指導、人権教育を両輪とした教員からの働きかけに加え、生徒自治会活動などを通じた生徒の取り組みも引き出し、安全安心な学習環境を維持する。 イ・外部講師などによる講演を実施し情報モラル、交通ルール遵守の姿勢を育てるとともに、薬物乱用防止教育に取り組む。 (4) ・緊急事態に対処できる実効性のある防犯計画、救急体制を確立するため、適宜点検・見直しを行うとともに、地域住民・警察等関係機関と連携した安全対策に取り組む。 (5) ICT の活用・業務の平準化を進め、「働き甲斐」を向上させながら、在校等時間の管理を並行して行う。	イ・学校教育自己診断の「担任以外で相談できる先生がいる」肯定率 76%以上 [74%] (3) ア・学校教育自己診断「生徒指導上のルール」を守っている肯定率 95%以上 [98%] イ・外部講師による情報モラル (SNS 含む)、交通安全、薬物乱用防止指導それぞれ 1 回実施する。[各 1 回] (4) ・関係機関や地域と連携した実践的な防災避難訓練を年 1 回以上実施する。[2 回] (5) ・ICT の更なる活用による会議時間縮減とペーパーレス化、業務整理・改善、部活動指導時間等の見直しを進め、「生徒・保護者の信頼度、働き甲斐」を損なうことなく年間平均時間外全日制の平均在校等時間 R 6 年度平均 370 時間 (月平均 30.8) 時間に目標設定 実現をめざす (R 5 : 33.3、R 6 : 30.8、R 7 : 30.4) ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をなくす。	
3 夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成	(1) キャリア教育の充実 ア 系統立てたキャリア教育の推進、魅力ある教育活動	(1) ア・「産社」「志学」「総合的な探究の時間」「HR」等の系統立てた組み立てによりキャリア教育を一層充実させ、選択科目と希望進路の親和性を高めるとともに、適切な教育課程の編成、多様な経験や専門性を持った人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実を図った魅力ある教育活動を展開し、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を育成する。	(1) ア・学校教育自己診断における「将来の進路や、生き方について考える機会がある」肯定率 90%以上の維持 [92%] ・総合学科アンケートにおける『『夢チャレンジ』では、研究や発表など創意工夫ができる機会を持つことができた』の肯定率 80%を維持[89%]	
	イ インターンシップの充実 (2) ア 部活動の充実と学校行事への積極的な参加 イ 生徒による学	イ・保育所、病院、老人介護施設、医療系大学等へのインターンシップの継続 (2) ア・「部活動に係る活動方針」、「部活動の適切な運営」に則り、部活動を充実・活性化すると同時に、各部の活動状況や成果についての情報・魅力発信を強化し、入部率の回復を図る。 イ・体育祭生徒準備委員会を発足させ、実施競	イ・保育所、病院、老人介護施設、医療系大学等へのインターンシップ等を昨年度と同程度の回数実施する [14 回] (2) ア・体罰ゼロを実現する。 ・クラブ紹介の充実や HP・ブログ等による活動状況等の情報・魅力発信を強化し、入部率を 66%まで回復させる [65%] イ・「体育祭」「文化祭」の満	

	校行事等の自主運営 (3) ア 学外活動への積極的な参加と地域連携	技や応援方法等の再検討を行うなど、「体育祭」「文化祭」「クラスマッチ」、「修学旅行」等の生徒が自主運営する行事の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支えることで、自主性の伸長を図る。 (3) ア・地域小学校との交流の継続 イ・地域のイベントやボランティア活動への参加	足度を 90%以上[89%] ・総合学科アンケート「自主性を伸ばすことが出来た」80%以上 <u>[90%]</u> (3) ア・地域小学校との授業交流を 1 回以上実施する <u>[2 回]</u> イ・地域のボランティア活動を昨年度と同程度の回数実施する <u>[120 名]</u>	
4 開かれた学校づくりの推進と情報の発信	(1) ア ホームページ、連絡網等の活用 (2) ア 学校説明会での情報発信 (3)緊急時の連絡手段の構築と活用 (4)マーケティング×ブランディング×プロモーションの法則に基づき、魅力向上を図る。	(1) ア・ホームページ、連絡網等を活用し学校の情報をタイムリーに保護者・生徒に提供してニーズに応えるとともに、地域社会に向けた効果的な広報活動の充実を図る。 (2) ア・参加者のニーズをとらえた学校説明会、ミニ見学会を開催するとともに中学校等から依頼のある説明会に積極的に参加 (3) ア 緊急時等における生徒・保護者・教職員の連絡手段の活用を図る (4) ア 魅力ある講座・探究内容について定期的・能動的に改善を検討する。	(1) ア・ホームページ、ブログ等の更新、連絡網によるタイムリーな情報発信により、学校教育自己診断（保護者）における「教育情報について、提供の努力をしている」<u>肯定率 87%以上[87%]</u> (2) ア・生徒・保護者のニーズを把握するため、学校説明会等において、「説明のわかりやすさ」「学校に対する興味」などのアンケートを毎回実施する。 (3) ア 具体的な手法を確立・維持する。 (4) ア 年に一度計画書を作成、F A委員会で検討、職員会議に提出する。	